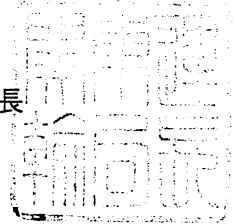




関自旅二第592号の3  
平成27年8月19日

一般社団法人 全国個人タクシー協会 関東支部長 殿

関東運輸局長



準特定地域における一般乗用旅客自動車運送事業の需給状況  
の判断結果について

標記について、平成26年1月27日付け公示「準特定地域における一般乗用旅客自動車運送事業の適正化の推進のために監督上必要となる措置等の実施について」に基づき別添のとおり公示したので了知されるとともに、傘下会員に対し周知されたい。



## 公 示

### 準特定地域における一般乗用旅客自動車運送事業の需給状況の 判断結果について

平成26年1月27日付け公示「準特定地域における一般乗用旅客自動車運送事業の適正化の推進のために監督上必要となる措置等の実施について」に基づき、一般乗用旅客自動車運送事業の需給状況の判断結果を下記のとおり公示する。

なお、需給状況の判断結果の算定基礎数値は、別紙のとおりである。

平成27年8月19日

関東運輸局長	濱	勝俊
東京運輸支局長	高橋	哲哉
神奈川運輸支局長	遠藤	恭弘
埼玉運輸支局長	田島	克彦
群馬運輸支局長	日置	滋
千葉運輸支局長	齋藤	隆
茨城運輸支局長	高橋	芳則
栃木運輸支局長	古川	一美
山梨運輸支局長	五十嵐	康夫

## 記

## 平成27年度における需給状況の判断結果

都 県	営業区域名 (交通圏)	必要車両数 (両)	平成26年度末車 両数 (両)	増加可能車両 数 (両)
東 京	特別区・武三	24,591	28,145	▲3,554
	北多摩	1,555	1,749	▲194
	南多摩	1,057	1,240	▲183
	西多摩	177	209	▲32
神奈川	県 央	2,073	2,227	▲154
	湘 南	332	389	▲57
	小 田 原	397	501	▲104
千 葉	京 葉	1,287	1,514	▲227
	東 葛	885	1,097	▲212
	千 葉	964	1,364	▲400
	北 総	663	805	▲142
	市 原	267	385	▲118
	南 房	311	423	▲112
埼 玉	県南中央	2,132	2,540	▲408
	県南東部	1,081	1,303	▲222
	県南西部	1,302	1,553	▲251
	県 北	355	431	▲76
群 馬	東 毛	245	329	▲84
群馬・埼玉	中・西毛	769	1,088	▲319
茨 城	県 北	329	485	▲156
	水戸県央	497	753	▲256
	鹿 行	184	325	▲141
	県 南	627	927	▲300
	県 西	246	385	▲139
栃 木	宇 都 宮	571	845	▲274
	県 南	374	519	▲145
	塩 那	155	241	▲86
山 梨	甲 府	326	396	▲70

※ 上記「平成26年度末車両数」は、特定地域及び準特定地域における一般乗用旅客自動車運送事業の適正化及び活性化に関する特別措置法（以下「タクシー特措法」という。）第2条第9項に定める事業用自動車（一般乗用旅客自動車運送事業（1人1車制個人タクシーに限る。以下「個人タクシー」という。）を除く。）の数である。

※ その他ハイヤー（道路運送法施行規則第4条第8項第3号の規定に基づき国土交通大臣が定める区分を定める告示（平成26年国土交通省告示第59号）第2号に規定するハイヤーをいう。以下同じ。）がある営業区域にあつては、算定した一般タクシー（タクシー特措法第2条第9項に定める事業用自動車からその他ハイヤー及び個人タクシーを除いたもの。以下同じ。）の必要車両数と平成26年1月27日現在の一般タクシーの車両数の乖離率を用いてその他ハイヤーの必要車両数を算定し、これを一般タクシーの必要車両数に加えて算定したものである。

## 附 則

本公示は、平成27年度の準特定地域における法人タクシー（一般乗用旅客自動車運送事業（1人1車制個人タクシーを除く。））の新規許可申請、条件解除の承認申請、営業区域の設定に係る事業計画変更認可申請、増車に係る事業計画変更認可申請、休車の解除に係る事業計画変更認可申請及び個人タクシーの新規許可申請について適用する。

## 1. 東京都

## (1) 特別区・武三交通圏

## ① 一般タクシー

輸送需要量 A=B×C	平成26年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
870,184,345	878,169,850	0.99

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
24,193	870,184,345	2,102,104,724	0.44	8,509,624	0.90

## ② その他ハイヤー

乖離率 $a = (b - c) \div b$	平成26年1月27日現在の 一般タクシー車両数 b	一般タクシーの 必要車両数 c
0.20	30,310	24,193

必要車両数 $d - (d \times a)$	平成26年1月27日現在の その他ハイヤー車両数 d
398	499

## (2) 北多摩交通圏

輸送需要量 A=B×C	平成26年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
49,393,247	50,438,154	0.98

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
1,555	49,393,247	110,090,275	0.49	562,669	0.90

## (3) 南多摩交通圏

輸送需要量 A=B×C	平成26年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
35,787,111	36,582,853	0.98

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
1,057	35,787,111	80,469,862	0.49	394,727	0.92

## (4) 西多摩交通圏

輸送需要量 A=B×C	平成26年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
5,821,664	5,930,331	0.98

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
177	5,821,664	12,728,736	0.52	66,035	0.90

2. 神奈川県

(1) 県央交通圏

輸送需要量 A=B×C	平成26年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
63,965,677	64,735,497	0.99

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
2,073	63,965,677	133,411,821	0.50	746,325	0.94

(2) 湘南交通圏

輸送需要量 A=B×C	平成26年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
10,806,965	10,968,480	0.99

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
332	10,806,965	22,821,668	0.51	118,767	0.90

(3) 小田原交通圏

輸送需要量 A=B×C	平成26年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
9,347,899	9,563,825	0.98

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
397	9,347,899	22,601,040	0.47	149,648	0.90

3. 千葉県

(1) 京葉交通圏

① 一般タクシー

輸送需要量 A=B×C	平成26年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
37,849,068	38,411,134	0.99

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
1,280	37,849,068	85,359,762	0.49	467,286	0.90

② その他ハイヤー

乖離率 $a = (b - c) \div b$	平成26年1月27日現在の 一般タクシー車両数 b	一般タクシーの 必要車両数 c
0.15	1,506	1,280

必要車両数 $d - (d \times a)$	平成26年1月27日現在の その他ハイヤー車両数 d
7	9

(2) 東葛交通圏

① 一般タクシー

輸送需要量 A=B×C	平成26年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
24,825,108	25,216,893	0.98

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
885	24,825,108	56,796,767	0.49	325,602	0.90

② その他ハイヤー

乖離率 $a = (b - c) \div b$	平成26年1月27日現在の 一般タクシー車両数 b	一般タクシーの 必要車両数 c
0.20	1,104	885

必要車両数 $d - (d \times a)$	平成26年1月27日現在の その他ハイヤー車両数 d
0	1

(3) 千葉交通圏

① 一般タクシー

輸送需要量 A=B×C	平成26年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
21,820,322	22,423,412	0.97

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
945	21,820,322	56,023,269	0.44	350,066	0.90

② その他ハイヤー

乖離率 $a = (b - c) \div b$	平成26年1月27日現在の 一般タクシー車両数 b	一般タクシーの 必要車両数 c
0.29	1,340	945

必要車両数 $d - (d \times a)$	平成26年1月27日現在の その他ハイヤー車両数 d
19	28

## (4)北総交通圏

## ①一般タクシー

輸送需要量 A=B×C	平成26年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
14,790,336	14,879,447	0.99

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
573	14,790,336	31,505,840	0.47	189,510	0.90

## ②その他ハイヤー

乖離率 $a = (b - c) \div b$	平成26年1月27日現在の 一般タクシー車両数 b	一般タクシーの 必要車両数 c
0.19	711	573

必要車両数 $d - (d \times a)$	平成26年1月27日現在の その他ハイヤー車両数 d
90	112

## (5)市原交通圏

輸送需要量 A=B×C	平成26年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
4,946,005	5,116,693	0.97

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
267	4,946,005	11,494,624	0.51	103,499	0.90

## (6)南房交通圏

輸送需要量 A=B×C	平成26年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
6,967,985	7,219,773	0.97

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
311	6,967,985	15,108,739	0.51	113,709	0.90



4. 埼玉県

(1) 県南中央交通圏

① 一般タクシー

輸送需要量 A=B×C	平成26年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
53,718,338	54,510,155	0.99

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
2,119	53,718,338	119,539,940	0.48	739,011	0.90

② その他ハイヤー

乖離率 $a = (b - c) \div b$	平成26年1月27日現在の 一般タクシー車両数 b	一般タクシーの 必要車両数 c
0.19	2,616	2,119

必要車両数 $d - (d \times a)$	平成26年1月27日現在の その他ハイヤー車両数 d
13	17

(2) 県南東部交通圏

輸送需要量 A=B×C	平成26年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
27,606,295	28,041,572	0.98

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
1,081	27,606,295	59,965,546	0.47	365,517	0.90

(3) 県南西部交通圏

輸送需要量 A=B×C	平成26年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
40,131,405	40,863,644	0.98

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
1,302	40,131,405	87,541,991	0.50	468,004	0.90

(4) 県北交通圏

輸送需要量 A=B×C	平成26年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
7,628,804	7,828,454	0.97

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
355	7,628,804	17,024,520	0.52	135,389	0.90

5. 群馬県

東毛交通圏

輸送需要量 A=B×C	平成26年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
5,414,128	5,560,423	0.97

必要車両数 A ÷ (D×E ÷ F) ÷ 365 ÷ G	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
245	5,414,128	11,675,549	0.53	92,036	0.90

6. 群馬県・埼玉県

中・西毛交通圏

輸送需要量 A=B×C	平成26年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
13,698,584	13,971,854	0.98

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
769	13,698,584	29,752,590	0.51	282,622	0.90

7. 茨城県

(1) 県北交通圏

輸送需要量 $A = B \times C$	平成26年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
6,378,427	6,543,477	0.97

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
329	6,378,427	15,175,236	0.47	121,207	0.90

(2) 水戸県央交通圏

輸送需要量 $A = B \times C$	平成26年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
10,328,110	10,488,088	0.98

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
497	10,328,110	24,960,052	0.50	196,239	0.90

(3) 鹿行交通圏

輸送需要量 $A = B \times C$	平成26年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
3,603,097	3,703,050	0.97

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
184	3,603,097	9,124,760	0.51	78,132	0.90

(4) 県南交通圏

輸送需要量 $A = B \times C$	平成26年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
13,368,594	13,793,101	0.97

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
627	13,368,594	31,287,058	0.49	237,140	0.90

(5) 県西交通圏

輸送需要量 $A = B \times C$	平成26年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
4,396,654	4,540,346	0.97

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
246	4,396,654	9,901,291	0.52	94,948	0.90

8. 栃木県

(1) 宇都宮交通圏

輸送需要量 A=B×C	平成26年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
13,894,824	14,029,333	0.99

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
571	13,894,824	30,828,025	0.51	214,645	0.90

(2) 県南交通圏

輸送需要量 A=B×C	平成26年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
7,125,909	7,327,496	0.97

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
374	7,125,909	16,416,481	0.51	143,463	0.90

(3) 塩那交通圏

輸送需要量 A=B×C	平成26年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
3,402,902	3,530,283	0.96

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
155	3,402,902	7,807,219	0.52	60,539	0.90

9. 山梨県

甲府交通圏

<b>輸送需要量</b> $A = B \times C$	平成26年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
5,915,546	6,137,507	0.96

<b>必要車両数</b> $A \div (D \times E \div F)$ $\div 365 \div G$	<b>輸送需要量</b> A	<b>総走行キロ</b> D	<b>実車率</b> E	<b>延べ実働車両数</b> F	<b>実働率</b> G
326	5,915,546	15,140,801	0.46	127,472	0.90

※「直近5年間分の対前年度比率の平均値」、「実車率」、「実働率」及び「乖離率」の数値は、小数点第3位で四捨五入して記載しているため、必ずしも計算結果は一致しないことがある。